

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 _____ 群馬県日本語教育支援政策研究会

1 事業の趣旨・目的

○「タスク積み上げ型」のシラバス、指導法、教材作成などの理解と実践

本講座の目的は本研究会で開発した新たな日本語教育の手法（「タスク積み上げ型」）を地域の日本語教育ボランティアに対する講義と実習指導を通し、その内容の理解と実践を促すものである。

「タスク積み上げ型」の日本語教育が目指すのは、生活者としての外国人が生活上の課題を解決するための日本語コミュニケーション能力の育成である。生活の中で解決すべき問題を「タスク」として捉え、複雑な言語行動を伴う「大きなタスク」と、それらを構成する比較的単純な「小さなタスク」に分けて考える。そして、易しいタスクを積み上げて行くことで、より複雑な難しいタスクが行えるように、即ち、タスクの「積み上げ」をコースデザインに反映させる。そして最終的には本研修を通して、可能であれば参加者自身が具体的なカリキュラムデザインまで自ら行えることを目指したい。

○「タスク積み上げ型」の日本語教育のそれぞれの地域への普及

これまでの研修の課題として、参加したくても物理的な制約（移動距離や移動時間など）で参加できないボランティアの方々が少なくないことがわかった。しかしこの課題は、群馬という地域的な特徴（公共交通手段が発達していない、自家用車での移動でも渋滞などで時間が定まらないなど）を考えると、すぐに解決することは難しい。従って、「タスク積み上げ型」日本語教育のスタイルをより多くの地域日本語教室に普及させるためには、ボランティアで指導的な立場にある方々にこの「タスク積み上げ型」スタイルをそれぞれの地域に持ち帰ってもらうことが現実的であると考えられる。本研修を修了し、「タスク積み上げ型」日本語教育の理解を深めた参加者には、それぞれの地域にこのスタイルを伝えていただきたい。また、このスタイルの普及だけでなく、実際にそれぞれの日本語教室で実践し、より多くの「生活者としての外国人」に効果的な日本語教育を行ってもらいたい。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月4日 18:00 ～19:30	群馬県立女子大学 352 研究室 (群馬県佐波郡玉村町上之手 1395-1)	[運営委員] 伊藤健人 川端一博 木暮律子 ヤン・ジョンヨン 太田祥一 [事務補助] 森沙耶佳	1) 委員紹介 2) 事業概要の説明 3) 研修内容について 3) 開催場所・日時・担当講師の検討 4) 募集方法の検討	事業の趣旨、目的、内容、今後のスケジュールについて共有した後、本事業のコンセプトや研修内容を検討した。また、事業実施に向けてボランティア研修の開催場所、開催日時、担当講師、対象者、配布チラシ等について検討した。
7月2日 19:30 ～21:00	群馬県立女子大学 352 研究室 (群馬県佐波郡玉村町上之手 1395-1)	[運営委員] 伊藤健人 川端一博 木暮律子 ヤン・ジョンヨン 太田祥一 [事務補助] 森沙耶佳	1) 開催会場変更・申し込み状況の報告 2) 第Ⅰ期ボランティア研修の検討 3) 今後の課題について	会場変更の報告、および現在までの申し込み状況の報告をした。また、配布チラシの反省点を議論し、研修の対象と目標を再確認した。
9月28日 15:00 ～17:00	(財)日本国際教育支援協会 第一会議室 (東京都目黒区駒場 4-5-29)	[運営委員] 伊藤健人 川端一博 木暮律子 ヤン・ジョンヨン	1) 第Ⅰ期研修の報告 2) 第Ⅱ期研修に向けた問題・課題の共有 3) 今後の課題について	終了したボランティア研修の報告を行い、成果と今後の課題について協議した。また、今後実施予定の第Ⅱ期ボランティア研修のスケジュール、内容、担当者等の検討を行った。
2月23日 14:30 ～16:00	群馬県立女子大学 352 研究室 (群馬県佐波郡玉村町上之手 1395-1)	[運営委員] 伊藤健人 木暮律子 ヤン・ジョンヨン	1) 第Ⅱ期研修の報告 3) 第Ⅱ期研修での問題と課題の共有 4) 本年度のまとめ	第Ⅱ期ボランティア研修の報告を行い、成果と今後の課題を議論した。そして来年度事業に向け、本年度の成果と課題を議論した。

【写真】



3 研修講座の内容について

(1) 研修講座名:「タスク積み上げ型」日本語教育・学習の理解と実践

(2) 研修の目標

主に日本語教育能力のスキルアップを目的とする。具体的には、「タスク積み上げ型」という本研究会が開発した従来の地域日本語教室の活動とは異なる新たな手法を、専門的なレクチャー・実習指導などを通して理解を深め、実践していただくことを目的とする。

(3) 受講者の総数 32 人

(出身・国籍別内訳 日本 32人)

(4) 開催時間数(回数)

研修・講義	第Ⅰ・Ⅱ期それぞれ 12 時間 (各全 6 回)
実習	第Ⅰ・Ⅱ期それぞれ 8 時間 (各全 4 回)

(5) 参加対象者の要件

現在ボランティア教室などで日本語教育に携わっており新しい指導法に興味・関心がある方

(6) 受講者の募集方法

【方法と媒体】

- ・(財)群馬県観光国際協会ホームページ(国際交流支援サイト)への掲載
- ・各地域の日本語教室を有する国際交流協会への呼びかけ(チラシの配布等)
- ・本研究会の研修に前年度参加した方への呼びかけ(チラシを添付した電子メールや FAX)

【応募書類と応募方法】

- ・以下のチラシの申込書に必要事項を記入し FAX および電子メールで受け付けた。

平成 22 年度 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
ボランティアを対象とした実践的研修
「タスク積み上げ型」日本語教育・学習の理解と実践

新しい「タスク積み上げ型」の日本語教育・学習について考えます。
研修では講義の他、ワークショップや実践的な模擬授業を行う予定です。
今ボランティアで日本語を教えている方はもちろん、
最新の教授法に興味がある方など多くの方に参加していただけるものです。



【特にこんな人にオススメです】

- 最新の教授法に興味がある
- 今ボランティアで日本語を教えている
- スキルアップしたい



■対象：上記に当てはまる方を募集いたします

■日程：毎週水曜日 7月 21 日～9月 22 日(全 10 回)

■時間：14：30～16：30 (120 分)

■参加費：無料

■会場：東横イン高崎駅前禁煙棟 会議室

(高崎市鶴見町 2-2/高崎駅西口から徒歩 3 分)

■駐車場：ホテル周辺のパーキングをご利用ください

※駐車料金は各自でご負担ください

■コーディネーター：伊藤健人(群馬県立女子大学)

■講師：伊藤健人(群馬県立女子大学)

木暮律子(高崎経済大学)／川端一博((財)日本国際教育支援協会) 他

■申し込み：E メールあるいは FAX で申し込みください。

【記入項目】氏名・住所・連絡先・所属・日本語教育歴・資格などの有無

Mail: gunma.japanese@gmail.com (メールを確認後、専用フォームをお送りします)

FAX: 027-223-1692 (別紙にご記入の上、左の番号までお送りください)

■締め切り：7月 14 日(水)まで

■主催：群馬県日本語教育支援政策研究会(代表：伊藤健人 (群馬県立女子大学))

■共催：群馬県(予定)

■問い合わせ：群馬県生活文化部国際課多文化共生推進係 (森) TEL：027-226-3396

～「タスク積み上げ型」とは～

文型を積み上げるのではなく、日常生活での課題(タスク)を積み上げていく教授法です。

たとえば、「図書館の利用カードが作れた!」「レストランの予約ができた!」などの比較的単純なタスクを積み上げることで、最終的には「病院で診察が受けられた!」などの大きなタスクに繋げていくシラバスを採用し、ロールプレイなどを用いて口頭会話能力の向上を目指します。

平成22年度 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
 ボランティアを対象とした実践的研修
 「タスク積み上げ型」日本語教育・学習の理解と実践事業募集要項

「群馬県日本語教育支援政策研究会」では、文化庁の委託（「生活者としての外国人」のための日本語教育事業）を受け、地域日本語教育・支援に携わるボランティアを対象とした実践的研修「タスク積み上げ型」日本語教育・学習の理解と実践」を行うことになりました。

1 目的

この研修は、主に日本語教育能力のスキルアップを目的とします。具体的には、「タスク積み上げ型」という本研究会が開発した従来の地域日本語教室の活動とは異なる新たな手法を、専門的なレクチャー・実習指導などを通して理解を深め、実践していただくことを目的としています。

2 内容

この研修では、まず「群馬の日本語教育・支援における課題」について多角的に検討し、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の背景的な理解を深めます(リストの①)。そして日本語教育の基礎的事項を確認しながら、本研究会で新たに提案する「生活者としての外国人」に対する日本語教育に特化した「タスク積み上げ型」のシラバス・教材・指導法などの理解を深めます(②③④⑤⑥)。さらに、研修の後半では、6回目までに学んだ知識や今までの日本語教室での経験をもとにした4回のワークショップを行い、より実践的に「タスク積み上げ型」による日本語教育・学習を理解していきます。

3 日程 11月19日(金)～2月18日(金)の毎週金曜 17:15～19:15 (120分)

(※ 12月24日、12月31日、1月14日、2月11日を除く)

日時	内容
11月19日 17:15～19:15	①群馬の日本語教育・支援における課題
11月26日 17:15～19:15	②課題解決のための対話による日本語習得A：言語行動観
12月3日 17:15～19:15	③課題解決のための対話による日本語習得B：学習・教育観
12月10日 17:15～19:15	④指導法：対話を重視した「タスク積み上げ型」の教室活動
12月17日 17:15～19:15	⑤評価：動機付けとしての評価
1月7日 17:15～19:15	⑥シラバス研究：「タスク積み上げ型」シラバス入門
1月21日 17:15～19:15	⑦ワークショップⅠ：学習者のニーズを考えてみよう
1月28日 17:15～19:15	⑧ワークショップⅡ：日本語教室で使える教材を作ってみよう
2月4日 17:15～19:15	⑨ワークショップⅢ：対話重視型の教室活動をやってみよう
2月18日 17:15～19:15	⑩ワークショップⅣ：タスク積み上げ型のシラバスを作ってみよう

※ 12月24日、12月31日、1月14日、2月11日は研修はありませんので、ご注意ください。

- 4 **会場** 群馬県立女子大学 (〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手 1395-1)
バスを利用する場合：JR 新町駅から約 10 分、JR 高崎駅から約 35 分、
JR 前橋駅から約 40 分、JR 伊勢崎駅から約 25 分
詳しくは群馬県立女子大学 HP(<http://www.gpwu.ac.jp/guide/map.html>)をご覧ください。

5 **参加費用**

研修への参加費用は無料ですが、会場までの交通費は各自ご負担ください。なお、お車でお越しの場合、大学の駐車場は無料です。

- 6 **講師** 地域日本語教育を専門とする大学教員・研究員：伊藤健人(群馬県立女子大学)、
木暮律子(高崎経済大学)、川端一博((財)日本国際教育支援協会) ほか

- 7 **主催** 群馬県日本語教育支援政策研究会 (代表者：伊藤健人 (群馬県立女子大学准教授))

- 8 **共催** 群馬県、(財)群馬県観光国際協会

9 **応募要項**

【受講者要件等】

現在ボランティア教室などで日本語教育に携わっており新しい指導法に興味・関心がある方を広く募集いたします。

【応募方法】Eメール(gunmajapanese@gmail.com)にて以下の9項目をメール本文にご記入の上、お申し込みください。

＜記入項目＞

- (1)氏名(ふりがな)
- (2)勤務先/所属団体
- (3)職名(あれば)
- (4)住所
- (5)電話番号
- (6)メールアドレス
- (7)日本語教室運営関連・指導補助歴等 (活動期間、活動先、内容等)
- (8)日本語教育に関する経験・資格等 (研修参加、検定試験合格、420時間修了等)
- (9)現状の地域日本語教育における課題について、ご自由にお書きください

【応募書類提出先】

下記のメールアドレス宛にご提出下さい。なお、応募書類の個人情報は厳重に管理し、本講座関連事業以外の用途には使用しません。

E-mail: gunmajapanese@gmail.com (担当：群馬県日本語教育支援政策研究会・森)

【連絡先】

群馬県生活文化部国際課多文化共生推進係 TEL：027-226-3396 / FAX：027-223-1692

E-mail: gunmajapanese@gmail.com ※お問い合わせは電子メールでお願いします。

(7) 研修会場

- ア 講義 : 第Ⅰ期＝東横イン高崎駅前禁煙棟会議室
第Ⅱ期＝群馬県立女子大学新館第1会議室
- イ 実習 : 第Ⅰ期＝東横イン高崎駅前禁煙棟会議室
第Ⅱ期＝群馬県立女子大学新館第1会議室

(8) 使用した教材・リソース : 毎回自作のプリントを使用した

(9) 講座内容

【第Ⅰ期】

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
7月21日 14:30～16:30	①群馬の日本語教育・支援における課題A:定住外国人の多様性、B:地域日本語教室の展望	群馬県立女子大学准教授 伊藤 健人	15人
7月28日 14:30～16:30	②日本語教育とは: 日本語教育の基礎	群馬県立女子大学准教授 伊藤 健人	18人
8月4日 14:30～16:30	③シラバス研究:構造重視・文型積み上げ型と「タスク積み上げ型」	群馬県立女子大学准教授 伊藤 健人	15人
8月11日 14:30～16:30	④教授法:構造重視・文型積み上げ型と「タスク積み上げ型」	群馬県立女子大学准教授 伊藤 健人	10人
8月18日 14:30～16:30	⑤指導法:文型練習中心の教室活動と「タスク積み上げ型」の教室活動	群馬県立女子大学准教授 伊藤 健人	14人
8月25日 14:30～16:30	⑥評価:動機付けとしての評価	(財)日本国際教育支援協会 作題主幹 川端 一博	11人
9月1日 14:30～16:30	⑦ワークショップ I:学習者のニーズから教育・学習を考	群馬県立女子大学准教授 伊藤 健人	12人

	えてみよう		
9月8日 14:30~16:30	⑧ ワークショップ Ⅱ：シラバスを作 てみよう	高崎経済大学講師 木暮 律子	12人
9月15日 14:30~16:30	⑨ ワークショップ Ⅲ：教材を作ってみ よう	群馬県立女子大学非常勤 講師 ヤン・ジョンヨン	12人
9月22日 14:30~16:30	⑩ ワークショップ Ⅳ：モデル授業をや ってみよう	群馬県立女子大学准教授 伊藤 健人	12人

【第Ⅱ期】

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
11月19日 17:15~19:15	①群馬の日本語教 育・支援における課 題	群馬県立女子大学准教授 伊藤 健人	7人
11月26日 17:15~19:15	②課題解決のための 対話による日本語習 得A：言語行動観	群馬県立女子大学准教授 伊藤 健人	7人
12月3日 17:15~19:15	③課題解決のための 対話による日本語習 得B：学習・教育観	高崎経済大学講師 木暮 律子	7人
12月10日 17:15~19:15	④指導法：対話を重 視した「タスク積み 上げ型」の教室活動	群馬県立女子大学准教授 伊藤 健人	7人
12月17日 17:15~19:15	⑤シラバス研究：「タ スク積み上げ型」シ ラバス入門	群馬県立女子大学准教授 伊藤 健人	8人
1月7日 17:15~19:15	⑥評価：動機付けと しての評価	群馬県立女子大学准教授 伊藤 健人	7人
1月21日 17:15~19:15	⑦ ワークショップ Ⅰ：学習者のニーズ を考えてみよう	(財)日本国際教育支援協 会作題主幹 川端 一博	6人

1月28日 17:15～19:15	⑧ ワークショップ Ⅱ：日本語教室で使える教材を作ってみよう	群馬県立女子大学准教授 伊藤 健人	7人
2月4日 17:15～19:15	⑨ ワークショップ Ⅲ：対話重視型の教室活動をやってみよう	群馬県立女子大学准教授 伊藤 健人	7人
2月18日 17:15～19:15	⑩ ワークショップ Ⅳ：タスク積み上げ型のシラバスを作ってみよう	群馬県立女子大学准教授 伊藤 健人	8人

(10) 講座の評価

①受講生に対するアンケート

第Ⅰ期および第Ⅱ期研修の受講者(32名)に対して研修終了後に以下の8項目に関するアンケートを実施し、20名の方から回答をいただいた(無記名回答)。

- | |
|---|
| <p>Q1 この研修を受けようと思った理由は何ですか？</p> <p>Q2 研修の内容はどうでしたか？</p> <p>Q3 最も印象に残っているのは何回目の内容ですか？</p> <p>Q4 ご自身の関わる日本語教育支援に足りないものは何だと思いますか？</p> <p>Q5 研修で学んだことを今後の活動でどう活かしていきたいですか？</p> <p>Q6 別の機会があるとして、その研修で学びたいことは何ですか？</p> <p>Q7 ご自身が現在の活動を通して感じる地域日本語教育における課題は何だと思いますか？</p> <p>Q8 生活者としての外国人に対して必要と思われる日本語教育以外の支援は何だと思いますか？</p> |
|---|

このアンケートへの回答を踏まえ、以下で、「②研修内容結果評価」と「③外国人支援体制等の今後の計画」について記す。

②実施主体からの研修内容結果評価

本研究会の研修内容結果に対する評価は、アンケートのQ1～Q3に対する回答から行うことができる。

- Q1 この研修を受けようと思った理由は何ですか？
- Q2 研修の内容はどうでしたか？
- Q3 最も印象に残っているのは何回目の内容ですか？

まず、アンケート Q1～Q3 の各項目ごとに、回答数や受講者からの意見を整理して挙げ、それに対する本研究会のコメントを記す。

【Q1 この研修を受けようと思った理由は何ですか？】

回答項目	回答数（複数回答有）
(1) 研修の内容に興味を持った	10
(2) 日本語教育支援活動に関するスキルアップ	9
(3) 地域の日本語教育全般に関する幅広い知識を得る	3
(4) 他の日本語教室で活動している方々との交流	2
(5) その他	1

「研修の内容に興味を持った」が一番多く、次に「スキルアップ」が多かった。この 2 項目を合わせると 76%で多くの受講者の目的が“内容”と“スキルアップ”だったと判断できる。

【Q2 研修の内容はどうでしたか？】

回答項目	回答数
(1)大変満足している	9
(2)満足している	9
(3)あまり満足していない	2
(4)不満である	0

「大変満足している」と「満足している」を合わせると 90%となり、受講者の研修内容に対する評価は全体的に高かった。具体的な意見には以下のものがあった。

【受講者の意見】

- 「ニーズ」、「なんのため」といったことを改めて考えさせてもらいました。
- 生活者としての外国人のタスク積み上げ型の授業展開の重要性が学べて大変参考になった。
- 他の人のロールプレイを聞いて客観的に見直すことができた。交渉会話内容で会話がどのように流れていくか、生活上必要とする言語行動を考えさせられた。

本研修が自身の活動を振り返る機会にもなり、今後の活動に生かされることが期待される。一方、「あまり満足していない」とした理由には、次の意見があった。

【受講者からのコメント】

- 配布資料の中で各人が考えて作成する空欄の箇所があるが解答例を教えてほしかった。
- 日ごろ教室で不安に思うこと、解らないことに対しての具体的なアドバイスがもっとほしかった

双方向型の自ら考えるスタイルを取っていたため、“答え合わせ”という方法は馴染まず、また、正解がないような問いも中にはあった。従って、「回答例を教えて欲しい」という声は想定されたものである。また、“教え方講座”のような内容ではなかったため、教室活動の悩み相談やすぐに役立つより具体的で個別の内容に対する質問も受けることはしなかった。従って、「具体的なアドバイス」がないことが「あまり満足していない」という評価に繋がったものと考えられる。

【Q3 最も印象に残っているのは何回目の内容ですか？】

回答項目	回答数（複数回答有）
(1)群馬の日本語教育・支援における課題：地域日本語教室の展望	1
(2)地域日本語教育とは？：日本語教室の活動のタイプとそれぞれの役割	4
(3)シラバス研究：構造重視・文型積み上げ型と「タスク積み上げ型」	5
(4)教育／学習観：学習と習得－課題解決を目指した対話による習得－	7
(5)指導法：文型練習中心の教室活動と「タスク積み上げ型」の教室活動	6
(6)評価法：動機付けとしての評価	3
(7)ワークショップⅠ：学習者のニーズから教育・学習を考えてみよう	2
(8)ワークショップⅡ：シラバスを作ってみよう	3
(9)ワークショップⅢ：教材を作ってみよう	5
(10)ワークショップⅣ：モデル授業をやってみよう(対話型教室活動の実践)	1

特に多かったのは「(4)教育・学習観」「(5)指導法」「(3)シラバス研究」「(9)教材作成(ワークショップ)」であった。それぞれ、どのような考え方に基づいて教えるのか、具体的にどのように教えるのか、どのような学習項目を扱うのか、教材はどのように作ればいいのか等の実践的な内容だった。以下、受講者からいただいた意見である。

【受講者の意見】 ※()内の数字は回答がよせられた項目番号

- 日本語教員の役割について考えさせられました。(2)
- 時々修正しながらでも教室活動をするポイントを見つけられました。(3)
- シラバスを考えること自体がとてもおもしろく思えた。(3)
- 教室活動の仕方のイメージがつかめ今後実際の活動にも意識して使ってみたい。(4)

- 言語的挫折を起こさせる。動機づけから課題解決までのプロセスを学べた。(4)
- 文型積み上げ型で支援をすることが多く、今回のような研修は初めてで良い勉強になった。(5)
- 今まで 評価について考えたことがなかったので参考になった(6)
- 学習者のニーズを引き出すための練習がかなり実践に役立つ研修内容だった(7)
- タスク積み上げ型シラバスを実際作成し、今後の活動の参考になった。(8)
- 学習者に使わせたい日本語表現がうまく引き出せるようロールプレイの内容を工夫するのが、興味深かった。(9)

本研修が今までの現場や教室内容を見直す機会となっており、特に内容面に関しては、「今回のような研修ははじめてで良い勉強になった」「教室活動の仕方のイメージがつかめ今後実際の活動にも意識して使ってみたい」「今後の活動の参考になった」などの意見がみられた。

◆研修内容結果に対する自己評価◆

これらの回答結果から、本研究会の研修内容結果は、概ね満足のものであったと自己評価することができる。主な評価のポイントは、①参加動機と研修目的の一致が見られた点、②受講者の高い満足度が得られた点、③高い関心を持つ研修内容を提供でき、今後の活動のヒントを与えられた点の3点である。

【①参加動機と研修目的の一致が見られた】

まず、受講者の参加動機が本講座の目的とほぼ一致するものであった点が挙げられる。これは、参加動機を知るための【Q1 この研修を受けようと思った理由は何ですか？】で、「内容に興味を持った」と「スキルアップ」の2項目が全体の76%であったことと、本講座の目的が「タスク積み上げ型」という新たな日本語教育の手法の内容理解とその実践を促すものであることから判断できる。

【②受講者の高い満足度が得られた】

受講者の満足度を測る【Q2 研修の内容はどうでしたか？】の回答では、回答数20のうち、「大変満足している」が9、「満足している」が9で両者を併せると18(全体の90%)となり、受講者の研修内容に対する満足度は高いものであったと言える。

【③高い関心を持つ研修内容を提供でき、今後の活動のヒントを与えられた】

アンケートの【Q3 最も印象に残っているのは何回目の内容ですか？】は、受講者の関心を調べる項目であり、本研修の評価とは直接的に関わらないが、ニーズを知ることで今後の研修内容を考える際の参考となる項目である。特に回答が多かったのは、「教育／学習観：学

習と習得一課題解決を目指した対話による習得一」,「指導法:文型練習中心の教室活動と「タスク積み上げ型」の教室活動」,「シラバス研究:構造重視・文型積み上げ型と「タスク積み上げ型」」,「ワークショップⅢ:教材を作ってみよう」であった。

この回答から,受講者は“どのような考え方に基づいて教えるのか”,“具体的にどのように教えるのか”といった「教室活動の進め方」と,“どのような学習項目を扱えばいいか”,“教材はどのように作ればいいのか”といった「教室活動の内容」に高い関心を持っていることがわかる。そして,このような関心を持って受けた本研修が今までの現場や教室内容を見直す機会となっており,「今回のような研修ははじめてで良い勉強になった」,「教室活動の仕方のイメージがつかめ今後実際の活動にも意識して使ってみたい」,「今後の活動の参考になった」などの意見に繋がったものと思われる。このような意見からも本研修は,受講者にとって良いものであったと結論づけられよう。

②実施主体からの外国人支援体制等に関する今後の計画

本研究会の外国人支援体制等に関する今後の計画を,アンケートの Q4~Q6 に対する回答を参考にまとめたい。

Q4 ご自身の関わる日本語教育支援に足りないものは何だと思えますか?

Q5 研修で学んだことを今後の活動でどう活かしていきたいですか?

Q6 別の機会があるとして,その研修で学びたいことは何ですか?

まず,アンケート Q4~Q6 の各項目ごとに,回答数や受講者からの意見を整理して挙げ,それに対する本研究会のコメントを記した後,「今後の計画」について述べる。

【Q4 ご自身の関わる日本語教育支援に足りないものは何だと思えますか?】

回答項目	回答数 (複数回答有)
(1) ニーズ分析	5
(2) シラバス作成	6
(3) 教材作成や教材選択	8
(4) 指導法・授業の進め方	11
(5) 評価法	5
(6) その他	7

「(4)指導法・授業の進め方」が最も多く,次いで「(3)教材作成や教材選択」の順となった。いずれもこの種のアンケートでは常に回答者の多いものである。個々の項目に関するコメントはほとんどなかったが,「(6)その他」に関しては,「すべて足りない」「どれというより全体的に足りない」といったものが多かった。

【Q5 研修で学んだことを今後の活動でどう活かしていきたいですか？】

【受講者からのコメント】

- テキストを使いこなしながら、必要に応じて「タスク積み上げ型」の活動を取り入れられたらと思う。
- ニーズに基づいた会話をもっと効果的に取り入れていくように工夫していきたい。
- 交流会話にしてしまわない様意識をしつつ、ニーズを把握した活動ができるよう心がけたいと思う。
- 学習者自身のノート作り、自由会話の話を準備をするようになりました。

「タスク積み上げ型の活動を取り入れられたらと思う」等、今後の活動に取り入れていきたいという意見が多くみられた。具体的には「ニーズに基づいた会話をもっと効果的に取り入れていく」「交流会話にしてしまわない様意識をしつつ、ニーズを把握した活動」等、実際に教室で行われる会話に活かしていきたいという意見があった。また、「自由会話の準備をするようになった」と既に実践している方もみられる。

【Q6 別の機会があるとして、その研修で学びたいことは何ですか？】

【受講者からのコメント】

- 「タスク積み上げ型」による教材の作成
- 日本語教室での実際の教え方の研修
- ニーズに合わせた効果的学習法
- 参加率がまちまちな学習者やレベルの差がある学習者を一つのグループで支援するにはどうするか
- 今回のタスク積み上げ型をもっと勉強したいです。

「タスク積み上げ型」による教材の作成や「実際の教え方の研修」「ニーズに合わせた効果的な学習法」等の教室活動に関する実践的な事項が挙げられた。これは、上の【Q4 ご自身の関わる日本語教育支援に足りないものは何だと思えますか？】という項目の回答で、「(4)指導法・授業の進め方」と「(3)教材作成や教材選択」が多かったこととの関連性が認められる。また、今回の研修内容であるタスク積み上げ型の教授法・学習法に関して、さらに知識を深めたいという声があった。

◆外国人支援体制等に関する今後の計画◆

これらの回答結果から、地域の日本語教室で活動しているボランティアの方々のニーズは、「教室活動の手法(指導法や授業の進め方)」と「教材作成(教材選択も含む)」が高いということがわかる。従って、外国人支援体制等に関する今後の計画、特にボランティアを対象とし

た実践的な研修としては、「教室活動の手法」と「教材作成」を組み合わせたものが効果的であると結論づけられる。本研究会としては、このような研修の実施に向け計画を進めていきたい。

(11) 事業の成果

①他事業との連携

本事業は、昨年度から群馬県・生活文化部・国際課に設置された「群馬県日本語教育の在り方研究会」、及び、「群馬県多文化共生推進懇談会」と有機的な連携を行ってきた。また、群馬県庁や市町村等の自治体、国際交流協会等で行う日本語教育関連事業での情報提供等も積極的に行っていく予定である。

②研修後の人材活用

本研修を受けて、「タスク積み上げ型」日本語教育の理解を深めた参加者には、それぞれの地域の日本語教室にこのスタイルを伝えていただいている。また、このスタイルの普及だけではなく、実際にそれぞれの日本語教室で実践し、より多くの「生活者としての外国人」に効果的な日本語教育を行ってもらっている。

(12) 今後の課題

本研究会が行ったアンケートは、Q1～Q3 が研修に対する評価、Q4～Q6 はボランティアのニーズ調査のためのものであるが、これらとは別に以下の2項目についてもアンケートを行った。これらは、生活者としての外国人の様々な支援における今後の課題となるものである。

Q7 ご自身が現在の活動を通して感じる地域日本語教育における課題は何だと思えますか？

Q8 生活者としての外国人に対して必要と思われる日本語教育以外の支援は何だと思えますか？

これらは、本研修から離れて、生活者としての外国人の日本語教育支援にあたっているボランティアの方々が、日々の活動で課題として認識していることや日本語教育支援以外で必要だと感じていることを、国や地方自治体、国際交流協会等に届ける目的で、また、このような報告書を通して、他の地域日本語教育に関わる組織・団体等と共有するために行ったものである。

Q7、Q8それぞれに実際の活動に基づく具体的な多くの意見を聞くことができたが、それらを整理すると、Q7に関しては、以下の4つのカテゴリーに大別することができる。

【Q7 地域日本語教育における課題】

- ① 各機関との連携
- ② 日本語教室内での連携
- ③ ボランティアに対するサポート
- ④ ボランティアや地域日本語教育に対する位置付けの明確化

また、Q8に関しては、主に以下の4つのカテゴリーに大別することができる。

【Q8 日本語教育以外の支援】

- ① 地域社会・住民との関わり
- ② 生活支援
- ③ 子どもの教育支援
- ④ 母語支援

以下、アンケートの自由記述をカテゴリーごとに挙げる。

【Q7 ご自身が現在の活動を通して感じる地域日本語教育における課題は何だと思えますか？】

【受講者からのコメント】

<①各機関との連携>

- ボランティアの善意に甘んじていて、行政の関わりが少ない。

<②日本語教室内での連携>

- 支援者同士の支援内容についての議論の場がなく、学習法に各支援者の個人差が大きいと思われる。学習者のニーズを聞いたうえで、レベルに応じた学習共通内容をある程度決めておく必要があるのではないかと考えている。

- 教える方・教えられる方、それぞれレベルがバラバラなのでそれをどうまとめるか

<③ボランティアに対するサポート>

- ボランティアにも最低限度の日本語指導、又レベルアップの機会があることを望みます。

- 初めてボランティアをする人に対して研修がなく、個人の資質にまかせっきりになっていると思えます。

<④ボランティアや地域日本語教育に対する位置付けの明確化>

- ボランティアという存在の在り方が様々ではっきりしない。
- 地域の外国人の日本語に対するニーズの把握、日本語が出来ないことにより社会的

に生じている問題の把握と地域日本語教育の場の現状がどのようにかみ合っているかを考える必要があると思います。

<⑤その他>

- 出席する学習者が日本語能力の必要性和持続性を感じるようにしてもらうこと。
- 学習者の傾向の変化も把握する必要があると思います。

【Q8 生活者としての外国人に対して必要と思われる日本語教育以外の支援は何だと思いますか？】

【受講者からのコメント】

<①地域社会・住民との関わり>

- 住民として受け入れる地域の体制作り(気軽に相談できる窓口情報、交流の場)
- 地域社会への受け入れ
- 地域住民との交流
- 地域の日本人自身も感じていることだと思いますが、閉鎖的な社会にほっとできる場を作ることだと思います。

<②生活支援>

- 日常生活で困っている事の相談にのってあげること
- 法律にかかわる問題。たとえば、相続・離婚・トラブル等
- 地域性のあるルール、習慣、特有の事柄についての情報を知らせる場所、機会が増え、参加しやすくなれば…。

<③子どもの教育支援>

- 子どもの教育の保障。例えば小学校入学前、中・高校進学時に本人と保護者への多言語の進路ガイダンスなど、教育委員会主導で、すぐにでも実施出来るのではないかと思う。

<④母語支援>

- 母語支援

これらの課題は一組織で解決できるものではない。従って、生活者としての外国人に対する日本語教育支援に関わる多くの組織・団体等が協力して解決していく道筋を考える必要があろう。